





手づくりのトレニングセンター

今、フランスはニースの近くのS.C.I(サービス・シビル・インターナショナル)のワークキャンプに参加しています。このキャンプは、二三年計画という長期のもので、人の出入りかなりあります。僕がここに来てからも五人か去り、四人か加わりました。この計画を中心になってやっているピエロの家は、あたかもコミュニティーのようで、様々な国の人間の出入りがあり、食時には、多い時には20人を越す程だ。(彼の家族は四人なのだか。)

彼の家は、すべて自分で作ったもので、今も三階建てのものを増

築中である。彼はこの家をS.C.Iのトレーニングセンターにしようと考えているらしい。

言葉よりも行動を

ピエロの家はニースの北方の山に位置し、キャンプ地は、カンヌの北25キロの所にある。ピエロは毎週土曜日、この向を往復している。彼はまた、彼の家やニース市内で救急、救助訓練をしたり、ボランティア活動に必要な地学、地理、生物学の講義をしたり、ヌスライドでS.C.I活動を見せたりしている。

ピエロは、「コミュニケーションよりアナキズムを述べか、くイズム」という前に、言葉よりも行動を先にしと盛んに強調していた。彼の家には、クロホトキヤその他アナキズムに関する本や、アナキストやパリュニオンを唱ったレコードをたくさん持っている。

キャンプの生産で自立

このワーク・キャンプの財源は政府から半分援助が出るからで、

先日も役人が視察に来ていた。これでは良くないので、キャンプ内で生産をあげて、そして自給して、こうと計画している。具体的に、防火帯作りを切った木(ミモカ)を売るとか

最初、僕には、ワークキャンプは短期間のボランティア活動といったイメージがあったが、彼らは生産をあげ、五、六カ所のキャンプ地を結びつけて人の出入りも自由にしたと考えている。こうなればコミュニケーションに近いと言える。

キャンプとこの地の人々との結びつきは、学校の先生がキャンプを尋ねてきたり、近所の人かキエスをしにきたり。とにかく、小さな山の中の町なので、ほとんどの人がこのキャンプのことを知っている。キャンプは町の中心近くにあり、元学校の建物を利用している。そして、遠くに移った学校に通うスクール・パスか、朝夕我々の作業場の近くを通る時、子供達か手を振ってくれる。のどかな風景である。

「先生、なんで学校の先生にな

れへんのん?」「学校の先生やったら教えるあかんこと決められてるし、こういうふうに教えるといふことも決められてる。そういうのが、いややねん」「ふうん。先生は、自由な教育がしたいねんよ。」「どうやねん。」「そうかい、質問の答に満足したのが、この中学一年生君は私の目をみて、にっこり笑ってくれた。

「都市に自分たちの共同体を創ろう」という夢いっばいの対話も「備北だより」第六号に発表してから四ヶ月たち、われらの塾「こむつな」は四条隈にゆくりと根をおろしはじめています。昨年11月末、生徒3名・先生3名でスタートを切った塾は、新学年を迎え四月からは、生徒数も3学年約20名と増え、本格的な塾としての活動を開始する。こむつなは、やっとな実践的な胎動を終え

塾の先生を探しています!

あなたも無限の可能性を秘めた子供達と学び合う仲間になりませんか?

塾にさうざうされている。塾生同士の横暴しながら、新たな教育闘争の視点を! 教育問題を共同体運動の視点からとらえようとするあなたに、へんな塾「こむつな」の先生になって下さいと呼びかけます。現在のところ、次の要領で塾をやっています。

- 〈対象〉中学1〜3年
- 〈科目〉数学・英語(社会・国語もやろう)
- 〈という計画もありません〉
- 週2回、英・数各1時間ずつ。交通費と月五千円くらいは支給できると思っています。
- くわしくは塾で発行している「こむつな通信」を送りますので、百人委まで連絡して下さい。